

田富小だより

他者のために働ける自分に成長した喜び

「銀河鉄道の夜」「やまなし」の作者、宮澤賢治は「世界全体が幸福にならないうちは、個人の幸福はあり得ない」と考え、当時貧しかった東北の農民のために働きました。亡くなる前日も、肥料の相談にのっていたそうです。賢治の考えは理想であって、その実現は難しいのかもしれませんが。しかし、自分さえ良ければよいという考えでは、私たちの暮らす社会は成り立たないのも事実です。

教育は、子供たちが「なりたい自分」になれるようにするための営みです。子供たちの様子を見てみると、「誰かのために役立てる人になりたい」という気持ちを感じることがあります。

以前の勤務校で、いつも登校時間ギリギリに登校してくる班がありました。1年生のAさんが、田んぼにオタマジャクシを見つけては立ち止まり、「疲れた」と言っては立ち止まりしたことが原因でした。班長のBさんに、「大変だね。大丈夫？」と声をかけると、「私が1年生の時、登校班の班長のCさんが毎日やさしく学校まで連れて行ってくれました。私も、Cさんのようにやさしく頼りになる6年生になりたいと思っていました。だから、がんばります。」と話してくれました。その表情からは、下級生の役に立てるまでに成長した喜びと自信が感じられました。

11月26日に行われた児童会役員選挙の立会演説会でも、立候補した子供たちの演説の中に、「児童会役員になって、今までにない自分を探してみたいと思いました。」「以前は恥ずかしいと思っていたけれど、代表委員や実行委員を経験していくうちに、人の役に立つ仕事が好きになりました。」という言葉がありました。これらの言葉からも、「よりよく生きたい。」「人のために役立てる人になりたい。」という気持ちが伝わってきました。本当によく育っているなあと感心しました。



私たち教職員や保護者にとっても、教え子や我が子が他者のために役立つ人に成長することは、とてもうれしいことです。単に学力を身に付けることが大切なのではなく、身に付けた学力を使って何をすることが大切なのだとすることを忘れずに、子供の教育に携わっていきたいと思います。

新しい学力の育成を目指して

「教科書の内容には、何の価値もない。」と言われたら、大勢の方は驚かれるのではないのでしょうか。しかし、文部科学省から出された新しい学習指導の目標では、学校における授業の最終目的は教科書の内容を理解することではなく、自ら学ぶ資質や能力を育てることであると示されています。教科書に書いてあることは、学問的には過去の遺物です。中学校の数学のピタゴラスの定理のようにキリストが生まれる前の内容もあります。たとえ現在最新の知識でも、子供たちが大人になったときには10年以上前の知識となっています。最新の知識も過去の知識の積み重ねの上に生まれたものなので、まったく価値のないものではありません。しかし、学校の学びで最も大切なことは、教科書を主たる教材として学ぶ過程で、自ら学び、考え、判断し、よりよく問題を解決できる資質や能力を育てることなのです。また、粘り強く学び続ける能力や自分の学びを振り返り改善する能力、感性も学力と認められています。先日4年生の算数で、「 $4 \times 4 = 16$ $3 \times 3 = 9$ $16 + 9 = 25$ 」を「 $4 \times 4 + 3 \times 3 = 25$ 」と1つの式に表されたのを見たある児童が、「すごい。式がすっきりした。」とつぶやきました。このような式の美しさを感じる力も立派な学力です。

私が出会った素敵な子ども達の姿

①5年生の子供たちは、児童会選挙に向けて朝の時間に教室を回ったり休み時間に校内を回ったりしました。立候補者はちょっと緊張気味ですが、「田富小をさらにいい学校にしよう」という意欲が伝わってくる引き締まった顔をしています。応援する人たちは、いろいろなアイデアを考え、立候補者のよさを伝えようと頑張っています。友達のために一生懸命に働く姿は、とても素敵です。

②この季節は、掃いても掃いても毎日新たな枯れ葉が落ちてきます。前号で落ち葉掃きを手伝ってくれる子供たちのことを紹介しました。先日は、教頭先生はいませんでした。さらにたくさんの子供たちが自分達だけで落ち葉を掃いてくれました。やろうと思ったことをすぐに行動に移す姿は、私たち大人も見習わなければと思いました。



田富小ニュース

立会演説会



11月26日に、児童会役員選挙の立会演説会が行われました。新型コロナ対策のため、今年度は体育館ではなく、校庭で行いました。立候補者は自分の考えを堂々と伝え、責任者は立候補者のよさを伝えました。聞いている人たちも真剣に聞いていました。

1年生 生活科



11月17日に、生活科で育てたカボチャとトウモロコシを使って、カボチャケーキとポップコーンを作りました。作り方は、子供たちが調べました。手作りおやつのおいしさとともに、収穫の喜びや友達と協力して活動する楽しさを味わいました。

中巨摩学校食育推進研究会

11月19日に、中巨摩学校食育推進研究会が行われました。4月から研究主任の武井教諭を中心に全職員で研究に取り組んできた成果を発表しました。新型コロナウイルス対策のため、参加者を制限しての実施となったことは残念でしたが、田富小学校の子供たちの生き生きと学ぶ姿を、他校の先生方に見ていただくことができました。講師の上智大学教授澤田稔先生からは、「田富小は、子供たちにとって居心地のいい学校ですね。」とのうれしいお言葉をいただきました。当日の運営をお手伝いしたPTA役員の皆さんにも感謝いたします。



2年生活科

「大きくなあれ おいしくなあれ」



4年国語

「給食の秋ミュージアムを作ろう」



5年総合的な学習の時間

「お米をおいしく食べよう」

